

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 生徒一人一人を大切にしたいきめ細やかな教育に努める。 (2) 生徒と保護者に年間学習計画を示し、その達成に努める。 (3) 生徒が主体的に判断し、自己責任を持って行動できるようにする。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導における、自転車・歩行者の交通マナー。93.7%→93.8→91 高校生としてのふさわしい服装や頭髪指導の徹底。96.1%→96.1%→95 教育相談における、個々の生徒への適切な指導。84.9%→85.7%→84.4 いじめや差別に対する厳しい対応。78.6→80.4%→84.2% 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇自転車・歩行者の交通安全や“思いあいの心”の意識の向上。 ◇端正な身だしなみや、社会の一員としてのマナー遵守への意識向上。 ◇教育相談を中心とした、個々の生徒に応じた適切な支援への連携。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が一致協力して取り組める体制を確立していく。 ・教育相談と関係外部機関、生徒指導の連携を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 様々な交通安全啓発活動を通して生徒自身の交通マナーに対する意識の向上。 (2) 身なり・マナー指導の継続実施。 (3) 人権講話（情報モラル）の実施。 (4) 十分な生徒理解による適切な支援の実施。	(1) 交通安全啓発活動が計画どおり実施できた。 (2) 身なり、マナー指導を計画どおり推進できた。 (3) 適切な人権講話が実施できた。 (4) アンケート調査の結果を分析する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・安全指導 ・身なり・マナー指導 ・生徒理解・人権教育 	<ul style="list-style-type: none"> ① 交通事故を減らすことができたか。 ② 身だしなみやマナーが向上したか。 ③ 生徒理解を深め、適切に支援することができたか。人権意識を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> Ⓐ B C D Ⓐ B C D Ⓐ B C D
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○交通事故に対する安全への意識が高まり、違反運転者が減った。 ○スカート曲げなど、頭髪・身なりで指導される生徒が減少している。 ○スペシャルサポート事業の活用により、教育相談の充実が定着しつつある。 ・▲イヤホン、スマホ利用による運転は減少しつつあるが、並進走行等による危険への認識が甘い現状がある。（傘さし運転等はほぼ見かけなくなった） ○身なり等の規定について見直しを図った。届け出書類等の廃止。 ・▲総合的な学習の時間を利用した活動の場や心の教育を充実させる必要がある。 	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・警察との連携により、生徒が安心して安全に高校生活が送れるような環境を目指す。（未然防止啓発活動等の充実） ・携帯電話の依存使用や身なりの乱れを是正する、マナー遵守の意識を高める。 ・MSリーダーズ等による生徒同士の呼びかけによる学びあいを大切にしたい指導を継続していく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月29日

【意見・要望・評価等】

- ・身だしなみがたいへんよく、基本的な生活習慣が身についていると思う。
- ・いろいろな場面での活躍が見られ、報じられている。今後も南高生であることの誇りをもって、マナーの向上に心掛けていただきたい。
- ・制服の変更等は、生徒からの具体的な提案がある場合には相談に乗って欲しい。
- ・現在の制服は、目立たない印象があるが伝統を守っている部分がある。
- ・自転車の運転マナーについてはたいへん良好であると思いますが、気を緩めることがないよう継続して指導していただきたい。

【別添2】(様式例2)

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣南高等学校

学校番号 22

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 生徒一人一人を大切にしたいきめ細かな教育に努める。 (2) 生徒と保護者に年間学習計画を示し、その達成に努める。 (3) 生徒が主体的に判断し、自己責任を持って行動できるようにする。	
2 評価する領域・分野	◇ 進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・外部評価アンケートでは進路情報提供の機会設定および適切なアドバイスに対する評価は前年よりやや下降した。 ・各学年とも約7割近くの生徒が国公立大学への進学を希望している。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・各学年の進路計画に基づき、組織的な進路指導体制により進める。 ・キャリア教育を推進し、主体的に生き方を考える姿勢を育成する。 ・職員の進路指導研究を支援し、受験指導体制をより充実させる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒の進路実現に向けて、各学年会と協議、実状把握に努める。 ・外部講師の活用により、進路意欲の喚起に繋がる企画を計画する。 ・職員共通理解のもと、生徒が主体的な学習に向かう学習環境を整える。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 土曜開放への参加奨励と学生サポーター活用 (2) 進路計画に沿った進路講話等の充実 (3) 保護者研修会、進路講話への参加	(1) 生徒の土曜開放や補習等への積極的参加 (2) 生徒の進路講話等からの意識の向上 (3) 保護者への進路情報や機会の提供	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・土曜開放、3年土曜補習、サテラインの活用 学生サポーター対応、平日進学補習・夏季補習	①・年間の実施状況 ・参加状況と進路意識向上	A B
・学年別進路講話の実施と充実	②実施状況と生徒の満足度	A
・保護者進路研修会や進路講話への参加	③参加者数及び満足度	A
11 成果課題	総合評価 A	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力定着の重要性を生徒、職員が再認識し、低学年からの正確な生徒の学力把握に加えて、進路情報を精選するとともに進学指導のノウハウを共有できるよう、各学年や個の生徒の進路課題段階に沿った取組を目指す。 進学指導重点校事業を活用し、職員自身が研修を重ね、生徒や保護者への進路に関わる提供情報の精選や充実を図る。 新テスト等の教育改革に向けて、「思考力・判断力・表現力を問う入試への対応」、「英語4技能検定への対応」、「多面的・総合的評価への対応」を検討、その流れを意識した土台作りに努める。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月29日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進学指導重点校事業の選定について。 大垣南高の進学における伝統をどう実現するのか。 大学入試改革にむけて入試内容が変更になる。 今までとは違う発想を変えていく取組を進める。 知識を生かして思考する力を育成し問題を解く能力を付けていく。 進学実績に関する具体的な目標を設定することも効果があるのでは。 ふるさと教育に関して地域探求の情報提供に協力する用意がある。
